

3.2 動物

3.2.1 哺乳類

調査は、哺乳類の糞を見つけたり、ネズミ類などを捕獲するのに適した冬に行いましたが、冬になると確認しにくくなる哺乳類もいるので、春から夏にかけて補足調査を行いました。

哺乳類の場合、ニホンザルなど一部の種を除くと昼間はほとんど見ることはできません。そこで、中・大型哺乳類については森林や耕作地などを歩いて、哺乳類が残した糞や足跡などの痕跡を探したほか、哺乳類が通るとその体温に反応してシャッターが作動し、撮影する事ができる自動写真撮影装置を用いた調査等を行いました。また、モグラ類やネズミ類といった小型の哺乳類については、痕跡や写真撮影では種の特特定が難しい場合が多いため、各種のワナを用いた捕獲調査を行いました。

その結果、表 3-2-1 に示す 6 目 10 科 19 種の哺乳類が確認されました。

表 3-2-1 哺乳類確認種一覧

目名	科名	種名	確認方法				
			目撃	捕獲	撮影	聞き取り	痕跡
モグラ	トガリネズミ	カワネズミ					糞
	モグラ	ヒミズ					
		モグラ属の種					坑道
サル	オナガザル	ニホンザル					
ウサギ	ウサギ	ノウサギ					糞
ネズミ	リス	ニホンリス					
	ネズミ	スミスネズミ					
		アカネズミ					
		ヒメネズミ					
		カヤネズミ					
		ハツカネズミ					
		ドブネズミ					
ネコ	イヌ	タヌキ					
		キツネ					糞
		イタチ					
	イタチ	テン					
		アナグマ					
ジャコウネコ	ハクビシン					足跡	
ウシ	イノシシ	ニホンイノシシ					糞
6 目	10 科	19 種					

注)種名・配列は、主に「日本産野生生物目録 脊椎動物編(環境庁編,1993)」に従いました。

三島市の哺乳類相の特徴としては、大型哺乳類が少ないことがあげられます。

確認された哺乳類は、県内の低地から低標高の山地で見ることのできる種が多いですが、県内であまり確認例がない種としては、カワネズミがあげられます。本種は山間地の溪流に生息し、水中を泳いで魚や水生昆虫類などを捕まえ餌としています。調査では、山田川の上流で糞によって確認されました。

大型の哺乳類では、ニホンザルとニホンイノシシの2種が確認されました。ニホンイノシシは箱根西麓の広い範囲に生息しているようです。ニホンザルについては稀に1~2個体が出没するだけで、群れはいないようです。

中型の哺乳類では、箱根西麓でノウサギ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ、アナグマ、ハクビシンが確認されています。このうち、ノウサギ、タヌキ、キツネは各所で確認されており、比較的広い範囲に生息しているようです。また、市街地や低地の耕作地のような人間活動が盛んな地域では、タヌキとハクビシンが確認されています。

小型哺乳類のうち、ネズミ類は6種確認されましたが、低地から箱根の稜線まで最も広い範囲で確認されたのはアカネズミでした。その他、スミスネズミは箱根稜線周辺の森林、ヒメネズミは箱根西麓の森林、カヤネズミは低地の水田、ハツカネズミは畑地、ドブネズミは市街地とそれぞれの種が好む環境で確認されています。

外来種としてはドブネズミ、ハツカネズミ、ハクビシンの3種が確認されています。これらは元々他のアジア諸国やヨーロッパに生息していた種類です。日本に入ってきた時期は比較的古いようですが、正確な時期については諸説がありはっきりしていません。

ニホンイノシシ



【撮影：2002/3/8 芦ノ湖高原別荘地】

ノウサギ



【撮影：2002/6/23 川原ヶ谷】

キツネ(糞)



【撮影：2002/2/27 谷田】

アカネズミ



【撮影：2002/2/28 谷田】

3.2.2 鳥類

多くの鳥は、一年中同じ場所に留まらず、季節により小移動あるいは大きな渡りを繰り返しているため、調査は繁殖開始時期(4~6月)、移動途中の時期(3~4月、9~10月)、越冬時期(1~2月)など様々な季節に行いました。

林の中に暮らしている小鳥は、動きも速く見つけにくいのですが、繁殖期初期に発する独特の鳴き声で種類を見分けることができます。調査時間帯は、鳥の活動が活発な早朝から午前中、峠(ねぐら)入りの夕方、夜間活動する鳥を確認するため日没直後などに設定し、各調査場所で1.5~3時間程かけて調査を行いました。種類の特定は、出来るだけ双眼鏡と望遠鏡で姿を確認しましたが、それが難しい場合は特徴的な鳴き声を聞き分けて行いました。

その結果、表3-2-2に示す15目37科113種の鳥類が確認されました。

表3-2-2 鳥類確認種一覧(1)

目名	科名	種名
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ
ペリカン	ウ	カワウ
コウノトリ	サギ	ゴイサギ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ
カモ	カモ	オシドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワアイサ
タカ	タカ	ミサゴ、トビ、オオタカ、ツミ、ハイタカ、ノスリ、サシバ
	ハヤブサ	チョウゲンボウ
キジ	キジ	キジ
ツル	クイナ	バン、オオバン
チドリ	チドリ	コチドリ、ムナグロ
	シギ	アオアシシギ、クサシギ、キアシシギ、イソシギ、ヤマシギ、タシギ、オオジシギ
ハト	ハト	キジバト、アオバト
カッコウ	カッコウ	ツツドリ、ホトトギス
フクロウ	フクロウ	アオバズク、フクロウ
アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ、アマツバメ
ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ、カワセミ
キツツキ	キツツキ	アオゲラ、アカゲラ、コゲラ
スズメ	ヒバリ	ヒバリ
	ツバメ	ショウドウツバメ、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ
	セキレイ	キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ピンズイ、タヒバリ
	サンショウクイ	サンショウクイ
	ヒヨドリ	ヒヨドリ
	モズ	モズ
	ミソサザイ	ミソサザイ
	イワヒバリ	カヤクグリ
	ツグミ	コルリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ノビタキ、シロハラ、イソヒヨドリ、トラツグミ、クロツグミ、アカハラ、ツグミ

表 3-2-2 鳥類確認種一覧(2)

目名	科名	種名
スズメ	ウグイス	ヤブサメ、ウグイス、オオヨシキリ、センダイムシクイ、キクイタダキ、セッカ
	ヒタキ	キビタキ、オオルリ、エゾビタキ
	カササギヒタキ	サンコウチョウ
	エナガ	エナガ
	シジュウカラ	コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ
	メジロ	メジロ
	ホオジロ	ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、アオジ、クロジ
	アトリ	カワラヒワ、マヒワ、ウソ、イカル、シメ
	ハタオリドリ	スズメ
	ムクドリ	ムクドリ
	カラス	カケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
外来種		
キジ	キジ	コジュケイ
ハト	ハト	カワラバト(ドバト)
スズメ	チメドリ	ガビチョウ、ソウシチョウ
15 目	37 科	113 種

注)種名・配列は、主に「日本鳥類目録 改訂第6版(日本鳥学会,2000)」に従いました。

三島市に生息する鳥は、低地～山地の林や農耕地に暮らす小鳥類に代表され、キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、スズメ、ハシブトガラスなどがよく見られます。繁殖のため南方から渡ってくる夏鳥としては、ヤブサメやクロツグミなどが確認されましたが余り多くはありません。夏季に楽寿園等に渡来するアオバズク、竹倉近郊で見られたサンコウチョウ、山田川中流域で繁殖するサシバ、諏訪之台橋付近に多いクロツグミは、近年減少が指摘される種として注目されます。また、稜線付近の牧草地に繁殖期に渡来するオオジシギは、限られた環境に生息する種として注目されます。

水辺をよく利用する種は、セグロセキレイ、ハクセキレイ、サギ類、カモ類、ヤマセミ、カワセミなどで、狩野川や大場川水系などで見られます。ただ、広い面積の河川や低湿地などがいないため、全体的に水辺の鳥の種類は少なく、渡り途中で渡来するシギ・チドリ類もごくわずかでした。

野生化した外国産の鳥としては、コジュケイ、カワラバト(ドバト)、ガビチョウ、ソウシチョウの4種が確認されました。この内、ガビチョウとソウシチョウの2種は、本来中国南部や東南アジア等に分布する種ですが、最近国内各地で分布を広げています。三島市ではガビチョウは箱根西麓の標高約200～900mまでの森林にほぼ一年中いるようです。またソウシチョウは冬季の調査で箱根西麓の2ヶ所で確認されました。

なお、5章で紹介する(財)日本野鳥の会沼津支部による鳥類調査では、カワウ、ミゾゴイ、ハヤブサ、ユリカモメ、エゾビタキ、コサメビタキ、ニューナイスズメの7種が確認されていて、それらを含めると、確認された種類数は15目38科120種となります。

カワセミ



【撮影：2002/6/25 楽寿園】

ツミ(巣立ち雛)



【撮影：2002/6/25 楽寿園】

キジ(雌)



【撮影：2002/3/7 芦ノ湖高原別荘地】

キジバト



【撮影：2002/6/17 楽寿園】

3.2.3 は虫類・両生類

田植えが始まる頃から梅雨が明けるまでの間は、カエル類の多くは繁殖期を迎えるので、産卵場所の水辺に集まってよく鳴きます。また、ヘビ類はカエルを食べに水辺でよく見られるようになります。そこで、調査は梅雨の時期に水田などの水辺を中心に調査を行いました。

水辺を歩いて活動個体にそっと近づき、じっくり観察して名前を確認しますが、カエルは鳴き声での確認も行いました。また、スッポン等のカメ類は近づくとすぐ逃げてしまうので双眼鏡で遠くから観察しました。なお、山地溪流のきれいな流れの中にすんでいるハコネサンショウウオの幼生は一年中見ることが出来るので、川の水が少なく観察しやすい時期に、流れの中の石を一つ一つ起こして、石の下に潜んでいる個体を確認しました。

その結果、表 3-2-3 に示すは虫類(は虫綱)2 目 5 科 9 種、両生類(両生綱)2 目 5 科 11 種の合わせて 20 種が確認されました。

表 3-2-3 両生類・は虫類確認種一覧

綱名	目名	科名	種名	確認方法	
				目撃	その他
は虫	カメ	ヌマガメ	アカミミガメ	成体	
		スッポン	スッポン	成体	
	トカゲ	トカゲ	オカダトカゲ	成体・幼体	
		カナヘビ	カナヘビ	成体・幼体	
		ナミヘビ	タカチホヘビ	幼体死体	
			ヒバカリ	成体・成体死体	
			アオダイショウ	成体・幼体死体	聞き取り
			シマヘビ	成体・亜成体、成体死体	
	ヤマカガシ	成体・幼体、亜成体死体	聞き取り		
2 目	5 科	9 種			
両生	サンショウウオ	サンショウウオ	ハコネサンショウウオ	幼生	
	カエル	ヒキガエル	アズマヒキガエル	成体・亜成体・幼体	
			アマガエル	成体・幼体・幼生	鳴き声
		アカガエル	ウシガエル	成体	鳴き声
			トノサマガエル	成体・幼生	
			ヤマアカガエル	亜成体・卵塊	
			ツチガエル	成体・幼生	鳴き声
			タゴガエル	成体・亜成体・幼生、卵塊	
		アオガエル	カジカガエル		鳴き声
			モリアオガエル	幼生・卵塊	鳴き声
	シュレーゲルアオガエル		幼生	鳴き声	
2 目	5 科	11 種			

注)種名・配列は、主に「日本産野生生物目録 脊椎動物編(環境庁編,1993)」に従いました。

は虫類で普通に見ることが出来るのはカナヘビで、山麓の広葉樹林や畑地の周辺で見られます。ヘビでは水田地帯で見られるシマヘビが代表的なものです。また、限られた場所にいるものとしてはハコネサンショウウオとカジカガエルがあげられます。ハコネサンショウウオは箱根山の標高約 500m より高い地域にすんでいます。カジカガエルは流れのある川に棲んでいますが、裾野市との境を流れる大場川で確認されているだけです。

三島市の水田で普通に見られるカエルはアマガエルで、ついでトノサマガエルです。また、箱根西麓の水田ではこれらに加え、シュレーゲルアオガエルがすんでいます。また、小さな水路や川で普通に見られるのはツチガエルで、これら4種が三島市で身近に見ることの出来るカエルです。

一方、元々三島市に生息していなかった種として、は虫類ではアカミミガメ、両生類ではウシガエル、モリアオガエルがあげられます。アカミミガメは、縁日やペットショップでミドリガメとして売られています。飼っていたものが逃げ出したり、世話が出来ずに放されたものが野生化したものです。ウシガエルは食用目的で1917年にアメリカから輸入されましたが、三島市にいつ定着したかははっきりわかりません。モリアオガエルは富士・愛鷹山麓などに生息していますが、三島市に生息しているという情報はありませんでした。今回の調査で楽寿園に生息することが確認されましたが、これは最近になって持ち込まれたものと考えられます。

アカミミガメ



【撮影：2002/4/19 三嶋大社(神池)】

シマヘビ



【撮影：2002/6/28 梅名】

ハコネサンショウウオ



【撮影：2002/8/29 大場川上流】

ツチガエル



【撮影：2002/6/28 梅名】